

# 眼瞼下垂について

## ～眼瞼下垂とは～

### ■ 概要・症状

眼瞼下垂とはその名前の通り、まぶたが垂れ下がってきて見にくくなる病気です。

まぶたが重い、見にくい、特に上方の視野がせまいという症状が主なものになります。

さらにまぶたを挙上できないためにおでこの筋肉を使って無理やりあげようとするこ

による眉毛挙上や、首を後ろに倒して見ようとする頸部後屈によって、頭痛や肩こりの原

因となることもあります。また眠たそうな見た目になるため整容面の問題が生じます。

見にくさや視野の改善のため、また副次的に頭痛や肩こり、整容面の改善を得るため

に手術を行います。

単なる整容面の改善のための手術は保険適応になりませんので、当院では扱っておりません。

### ■ 分類・原因

主なものは腱膜性眼瞼下垂・上眼瞼皮膚弛緩症が混在した退行性（加齢性）眼瞼下

垂になります。

#### 腱膜性眼瞼下垂（筋肉が緩んでいる）

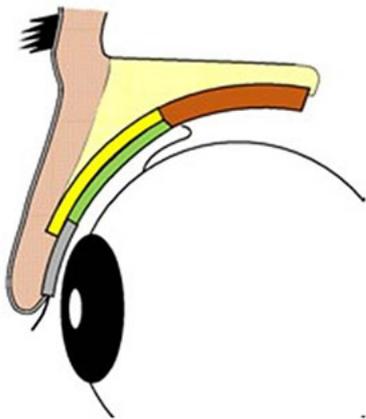
---



右腱膜性眼瞼下垂

眼瞼挙筋という筋肉が、瞼のキワにある瞼板を持ち上げることで、まぶたを持ち上げていますが、この眼瞼挙筋と瞼板を繋いでいるのが挙筋腱膜とミュラー筋という組織です。

腱膜性眼瞼下垂ではこの挙筋腱膜とミュラー筋にゆるみが生じ、眼瞼挙筋の力をうまく瞼板に伝えられないことで起きてしまう眼瞼下垂です。



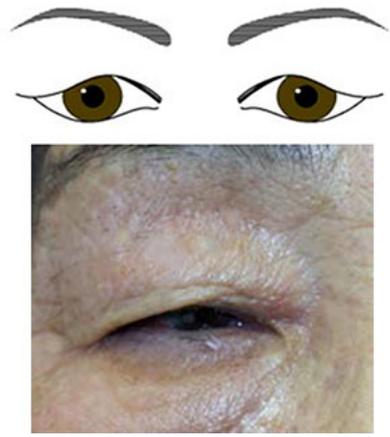
原因としては加齢に伴い徐々に進行していくものですが、その程度には個人差があり、一生問題にならない方もいらっしゃいます。

また、ハードコンタクトレンズの長期使用者や白内障手術後にも生じる可能性があることが知られています。

このタイプの眼瞼下垂の場合は挙筋腱膜やミュラー筋のゆるみをとる、挙筋前転術や挙筋短縮術を行うのが一般的な治療法となります。

## 上眼瞼皮膚弛緩症（皮膚が被さる）

---



まぶたの皮膚にたるみが生じ、まぶたは開いているのに、皮膚が覆いかぶさってしまい瞳孔にかかることで、見にくさやまぶたの重さが生じるものです。こちらも主に加齢に伴って進行するものです。

眉毛の下や重瞼線の所で皮膚を切除するのが主な治療法となります。軽度のものであれば二重の線をしっかり作ることによって治療できる場合もあります。

## 先天性眼瞼下垂

---



生まれつき眼瞼挙筋の働きが弱い、または眼瞼挙筋の欠損があるものです。両側性の場合も片側性の場合もあります。

重症のものでは、片眼で見る癖がついてしまい、下垂のある眼を使わないことによる弱視が生じてしまうので、眼科の先生と連携しながら幼いうちから治療が必要な場合があります。

軽度のものであれば挙筋前転術や挙筋短縮術、中等症から重症では筋膜吊り上げ術が一般的な治療法となります。

## その他のもの

---

顔面神経麻痺、動眼神経麻痺、horner 症候群、murgess gunn 現象、重症筋無力症、筋ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症、眼瞼・眼窩腫瘍、眼球陥凹、眼瞼痙攣など